○誕生会世界の子どもが集まった
　　壁のかざりは十二の国旗
○石畳でこぼこならぶ通り道一つ一つがみな個性的
○ラマダンに日の沈むのを待ちかねて
　　食事を前に祈る人たち

感心したり、驚いたりしながら適応していっている。

（5）異文化に同化していく

○見られてる少し気になる皿の上にわとり料理頭がポツン
○えり立てる人々並ぶ焼栗屋かじかむ手には２ユーロにぎり
○学校で習ったタイ語を使ったら負けてもらった夜のバザール
○秋雨も時雨も五月雨夕立もみんなシャワーと呼び
　　傘もささず
○ロンドンの赤い煉瓦に赤いバス赤いもの好きの私が住む町

異文化にも慣れてきて、今じゃ当たり前のように、現地の生活を楽しんでいる。

（6）戦争についてうたう

○白い墓に刻まれし文字兵士らの歳は我とあまりかわらず
○見たくない見ないといけない父が言う
　　アウシュビッツの暗い夕暮
○隠れ家で辛い生活だったでしょう私もアンネと同じ十三
○消しゴムで消せるものなら消したいな
　　残ってしまった戦争の傷

国内では考えたこともなかったのに、戦争の恐ろしさや、平和の尊さを痛感したと述懐しています。

（7）学校のことをうたう

○先生が徹夜でつくる期末テストたった一人の私のために
○一人去りまた一人去る教室の空席目立つ中三の夏
○スザンヌは日本の筆箱大好きでいつも私の鉛筆使う
○スペリングぐらいは百点とってやる鉛筆握って頑張る覚悟
○ツナミって日本語なのとアメリカの先生が聞く地震のあとで

いろいろなことがあっても、子どもたちには学校は天国。

（8）自分のことをうたう

○青き空輝く太陽みつめつつ未来の自分もイメージできずに
○私たち帰国子女はむつかしい何処にいっても中途半端か
○アメリカで何が出来るか考えたそしたら私努力が出来る
○日本語が分からなかった
　　泣いた日がいくつもあった頑張った日日
○十四の春に進路を考えて私は初めて私と話した
○ must でも should でもなくて may がいい
　　自分の未来は自分で決める
○ have to を使った例文考える「私は日本に帰らねば」

いろいろ体験し、そこで考え、成長していくんですね。

張江　幸男　（はりえ　ゆきお）

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA　顧問

前全日本空輸（株）海外子女教育相談室長、元三菱商事（株）相談室長、元ニューヨーク日本人学校校長、元台北日本人学校教頭

（9）家族のこと

○祖父の死を異国で聞いてる父の顔眼鏡の奥で涙が光る
○イギリスの冬は寒いと
　　お祖母ちゃんが送ってくれた手編セーター
○こっそりと父の日用のカード作る
　　パパ大好きとフランス語で書いた
○上手くない英語で交渉進めてる父の姿が輝いて見える
○真夜中の物音に目覚めリビングみれば洗濯物を畳む母の背
○母の日の花束にかえ感謝する心の数だけアイロンをかける

子どもは親のことをよく見ていますね。そして親の愛情のことも心から分かっていますよ。

（10）日本のこと

○アメリカで習い始めたお習字に日本の文字の美しさを知る
○日本のお寺にあった金の紙『金ぱく』というきれいな響き
○グラビアに観る日本の紫陽花に白き雨降る雨音もなく
○母国語の大切さ知る異国の地学び足りない言葉の深さ
○七夕に餅つき凧揚げ盆踊り日本にいるより日本人かな
○アメリカに長く住んでも机には靴で乗らないぼくは日本人

子どもなりに日本のことに関心を持ち、学ぼうと思っているのです。

【4】皇后美智子さまの「橋をかける」（文春文庫）より

子どもの読書について書かれた文ですが、文中、短歌について触れられております。抜粋しました。・・・・

心が躍動し喜びと感謝がわきあがってきました。初めてこの意識を持ったのは、東京から来た父のカバンの中に入っていた小型の本の中に、一首の歌を見つけました。それは春の到来を告げる美しい歌で、日本の五七五七七の定型で書かれていました。その一首を繰り返し誦していると、古来から日本人が愛し、定型としたリズムの快さの中で、言葉がキラキラと光って喜んでいるように思われました。詩が人の心に与える喜びと高揚を、私はこのとき初めて知ったのです。先に私は、本から与えられた「根っこ」のことをお話しいたしましたが、今ここに述べた「喜び」は、これから触れる「想像力」と共に、私には自分の心を高みに飛ばす、強い「翼」のように感じられました。

（後略）

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA

〒145-0064 東京都大田区上池台3-39-9
Tel:03-5754-2240　Fax:03-5754-2241
http://www.jolnet.com/

五七音は不思議です。日本語のリズムの基本です。

それは、日本文化の象徴的な存在にもなっています。アメリカの子ども達も、俳句が「世界でもっとも短い詩」として学校教科書で紹介され、英語でも、五七音を使って俳句や短歌を作っています。「海外の子どもを日本人に育てる」ためにも必要な道具です。

また、ここで紹介された短歌から、一人ひとりの子どもが選んだ題材や出来事の広がりに驚きます。外国の事物だけではなく、英単語の must すら自在に使われています。作者の視点の広がりと深さを痛感します。海外での短歌作りは、「思考力のトレーニング」にもなっています。